

令和4年度

授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 令和3年度「授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第3学年

令和4年9月
目黒区立第十中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	1 3 9 人	1 3 1 人	1 3 8 人
実施数	1 3 6 人	1 2 5 人	1 3 4 人
受検率	9 7 %	9 5 %	9 7 %

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

2年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

3年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3) 実施日

令和3年4月14日（木）

Ⅱ 令和３年度「授業改善プラン」の検証

(1) 成果

- ・昨年度の課題を踏まえた授業展開や解決のための手だてを着実に実施してきたことが成果となり、目黒区学力調査において全体で目標値を上回り、３学年においては社会科、数学科、英語科において平均正答率も昨年度を上回ることができた。

(2) 課題

- ・２学年の国語科、社会科、数学科、理科において昨年度より平均正答率の低下がみられた。主体的・対話的な取り組みを意識して、ゲームや話し合い活動を通して生徒が意欲的に楽しんで授業に取り組む姿勢はみられる。しかし、じっくり思考して書くことや繰り返し解いて覚えることといった活動も、授業で充分取り組む時間を確保していく必要がある。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

- ・思考力、判断力、表現力等の育成のために、言語活動の充実を図る。また、ＩＣＴ機器を使って、より積極的に言語活動の充実に取り組んでいくために、ＩＣＴ研修やＧＩＧＡ支援員との連携する機会を増やしていく。
- ・全教科において、基礎的な学習の定着を図るとともに、カリキュラム・マネジメントに努める。
- ・数学科においては習熟度別指導、英語科においては少人数指導、さらに各授業における学習指導員を活用して、個に応じた指導を充実し学力の向上を図る。

授業改善プラン 第十中学校 国語科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：書くこと】 ○観点：思考・判断・表現 ・問題の意図や指定された条件に沿って自分の考えを明確に書く。	・書くことに対する苦手意識を少なくするため、様々なテーマで短く自分の考えを書く時間を設ける。 ・設問の意図を読み取ったり、示されている条件を確認したりしながら文章を書く演習を月1回程度行う。
第二学年	【領域：書くこと】 ○観点：思考・判断・表現 ・自分の考えを明確にして書く。	・作文課題においてスモールステップで自らの考えを整理し、順序だててまとまりのある文章を意識させる。 ・各単元で一つは作文課題を取り入れ、振り返りやフィードバックを行う時間を設ける。
第三学年	【領域：書くこと】 ○観点：思考・判断・表現 ・文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを明確に書く。	・説明文を読む時に、筆者の意見や主張、まとめなど抽象的に表現されている部分と、事例や根拠などの具体的な部分を結び付けて読むことを徹底する。 ・都立高校入試問題の作文（テーマに対して自分の経験や見聞をふまえて自分の意見を述べる形式）の演習を月一回ペースで行う。

授業改善プラン 第十中学校 社会科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：世界の中の日本の役割】 (観点：知識・技能) 世界の中の日本の役割について地域の諸事象や地域的特色を理解し基礎的な知識を身に付けること。	・知識の定着を促すため小テストを計画的に行う。 ・習得した知識を活用して資料を読み解いたり、学習用情報端末で情報を集めて考えを深め、課題に対して議論して解決したりする活動を設定する。 ・「世界の中の日本の役割」の領域は、公民的な内容であるが、世界地理の学習で小学校の既習事項と関連付けて授業づくりをして復習させる。
第二学年	【領域：世界の諸地域】 (観点：知識・技能) 世界各地の人々の生活は、自然及び社会的条件から影響を受けていることについて理解し知識を身に付けること。	・身近な出来事等と関連付け、計画的に小テストを行うことで知識の定着を促す。 ・技能を習得させるために、様々な資料を読み取る時間を設定したり、資料をもとに仮説を立て学習用情報端末等を活用して調査する時間を設定したりする。 ・習得した知識や技能を活用して、結論を自分の言葉でまとめたり、課題に対して議論したり解決したりする活動を設定する。
第三学年	【領域：日本の諸地域】 (観点：知識・技能) 日本の各地方の人々の生活は、自然及び社会的条件から影響を受けていることについて理解し知識を身に付けること。	・知識を習得させるために、小テストを計画的に行う。 ・習得した知識を活用して、結論を自分の言葉でまとめたり、課題に対して議論したり解決したりする活動を設定する。 ・「日本の諸地域」の領域は、小学校の既習事項や社会事象と関連付けて、授業づくりをしていく。

授業改善プラン 目黒区立第十中学校 数学科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：方程式】 ○観点：知識・技能 ○課題：いろいろな方程式の解き方を身につけることが出来る。	・フォローアップワークシートを活用し、夏期休業中に小学校での基本的な学習内容の復習をする。授業でも復習する時間を設定する。 ・問題解決の対象を明らかにし、解決の方法について見通しをもって問題に取り組ませる。
第二学年	【領域：連立方程式】 ○観点：知識・技能 ○課題：代入法、加減法を用いて、いろいろな連立方程式の解き方を身につけることが出来る。	・フォローアップワークシートを活用し、夏期休業中に基本的な学習内容の復習をする。授業でも復習する時間を設定する。 ・授業の演習の後、その授業の振り返りとして、数学的な活動の時間（両方の式を何倍かにする・最小公倍数、式を代入して解く、式を変形して解く、かつこのある連立方程式を解く、係数に分数がある連立方程式を解く、$A=B=C$ の形の方程式を解くなど様々な課題に最も適した解法を身につける学習）を設定し、意見交換を行い、その日の学びを振り返りシートに書くことで、学びの定着を図る。
第三学年	【領域：二次方程式】 ○観点：知識・技能 ○課題：二次方程式の解き方にあたり、適切な解法によって課題を解決することが出来るようにする。	・何を用いて、それをどのように用いたことで問題解決に至ったかを振り返る場面を設定し、定着を図る。 ・授業の演習の後、その授業の振り返りとして、数学的な活動の時間（因数分解を用いたり、平方根を用いたり、解の公式を用いたりして、様々な課題に最も適した解法を身につける学習）を設定し、意見交換を行い、その日の学びを振り返りシートに書くことで、学びの定着を図る。

授業改善プラン

目黒区立第十中学校 理科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：生命】 観点：知識・技能 単元：植物のからだのはたらき 課題：顕微鏡を用いた観察の仕方と顕微鏡の使い方について改善の余地が見られる。	・ワークシートを用いて、顕微鏡の使い方について理解する。 ・パフォーマンステストを実施して、一人ひとりが操作を確実にできるように指導する。 ・観察の実験の回数を多くすることで、顕微鏡の操作が正確に、自由にできるようにする。
第二学年	【領域：生命】 観点：知識・技能 単元：植物の分類 課題：単子葉類の根のつくりについての理解に改善の余地が見られる。	・単子葉類、双子葉類を自分たちで採取し、スケッチをさせることをとおして、違いに気付かせる。 ・根の違い、仕組みのメリットデメリットを、話し合い活動をとおして内容をまとめ、理解を深めさせる。 ・ある程度理解が深まった後にワークシートを活用して定着させる。 ・副教材のワークの記述問題に取り組ませ、表現についても洗練させ、「わかる」から「できる」ようになることを目指す。
第三学年	【領域：物質】 観点：知識・技能 単元：化学変化と原子分子 課題：マグネシウムの酸化についてマグネシウムの質量と化合する酸素の質量の関係についての理解に改善の余地が見られる。	・実験計画を作らせる段階で、仮説を各班で話合わせ、クラスで共有させる。 ・結果の考察時に各班のデーターを共有することで、規則性について理解させる。 ・グラフからの読み取りを練習し、特に比率の計算を意識したワークシートの問題演習をさせる。

授業改善プラン 目黒区立第十中学校 英語科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：聞くこと】 (観点：思考・判断・表現) ○会話全体の理解 ・日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測している。 ・対話や話を聞き、その概要を捉えている。	・映像を含めたリスニング教材を活用することで内容理解の補助とし、理解力を高めさせる。 ・リスニングポイントを確認してから、リスニング問題に取り組ませる。 ・問題以外にも聞き取れた部分について答えさせ、生徒間で情報交換させる。
第二学年	【領域：知識・技能】 ○語形・語法の知識・理解 対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(命令文の動詞の形) 前年度比較：-10.1	・過去形や進行形など様々な動詞の変化形を整理できるようにまとめシートを作成する。 ・特に命令文は1年生の文法事項のため、1年生で習得した語形・語法はライティングなどでアウトプットする機会を設け、定着を図る。
第三学年	【領域：思考・判断・表現】 ○場面に応じて書く英作文 対話の流れに合った英文を正確に書いている。	・場面設定をした会話の練習をするだけでなく、自分の使った表現をノートに書き、教員やALT がチェックする活動を継続して行う。